

[アルゼンチン]

人類の敵、 紫外線対策を強化！

オゾン層破壊で地球上に降り注ぐ有害な紫外線。

対策が急がれる南米大陸の南端に、オゾン層観測装置が設置された。

Close Up!

ジャイカのア
しあと



日差しが容赦なく照り付ける8月、日焼けやシミが気になる女性に限らず、すべての人にとって大敵なのが紫外線だ。有害な紫外線は、大量に浴びると皮膚がんや白内障にかかりやすくなり、病気に対する免疫力も低下する。

そんな危険から守ってくれるのが大気圏中のオゾン層。紫外線を吸収し、地上の生態系を保護する機能を持つ。ところが近年、フロロなどが原因でオゾン層破壊が進み、南極上空ではオゾンホールが頻繁に確認されている。最近はその縁がアルゼンチンやチリの南端部にまで達することも多い。

オゾン層がどのくらい破壊され、どれだけの紫外線が地表に到達しているか。そうした指標は全世界における紫外線対策の軸となるが、地上、上空、宇宙などさまざまな地点からオゾン層を観測し、多くの観測結果を発信している北半球に対し、南半球からの観測データは著しく不足していた。

そこで昨年7月、南半球の観測体制を強化しようと、首都ブエノスアイレスから約2600キロ、南米大陸南端のリオ・ガジェゴス

市に設置されたのが写真の観測装置。アルゼンチンの国立レーザー応用研究センターが開発・製造したもので、大気圏のオゾン濃度の分布を高精度で観測、正確な観測結果の発信が可能だ。

観測方法やデータ解析などの人材が不足していたためJICAは専門家を派遣。また、部品や周辺機器の提供、装置の輸送協力のほか、世界の関係者間のネットワークづくりのためにホームページで情報公開したり、特に紫外線の量が増える春夏には住民への啓発活動も行っている¹。また、7月に奈良市で開かれた「第23回レーザーレーダ国際会議」²にセンターのアルゼンチン人スタッフが初めて参加し、プロジェクトの成果を発表。こうした学術交流は彼らの自信にもつながる有意義な機会だ。

ここでのデータは南半球を代表する観測結果として全世界で活用される。つまり、南米だけでなく、地球上に生きる人々の健康を守る重要な役割を担っているのだ。



1 南米大陸南部地域におけるオゾン層の観測体制の強化を目的とした「オゾン層観測強化プロジェクト」。協力期間は2004年3月～07年2月。URL: <http://www.solarlidar.com.ar>

2 レーザーレーダの研究者や技術者が2年に一度世界各国から集まり、研究成果を発表する場。